

デジタルリテラシーについて

- ・ デジタルリテラシーがなぜ必要か？
- ・ デジタルリテラシーとは何か？
- ・ 働く場に広がるデジタル技術
- ・ 具体的に何を身に付ければいいのか？
- ・ デジタルリテラシー習得の効果は？
- ・ 【参考】 デジタルリテラシーがなぜ今必要なのか？（解説動画）
- ・ 【参考】 DXリテラシー標準について
- ・ 【参考】 デジタル人材育成プラットフォーム“マナビDX”の使い方
- ・ 【参考】 ITパスポート試験（デジタルリテラシー習得）について
- ・ 【参考】 すべてのビジネスパーソンが持つべきデジタル時代の
共通リテラシー領域「Di-Lite」について、
「DX推進パスポート」について

デジタルリテラシーがなぜ必要か？

いま、私たちが働くあらゆる場面で様々なかたちでデジタル技術が広がってきています。

コンピュータを操作して資料作成やデータ管理等を行うだけでなく、一見すると、デジタル技術と関係がないような業務にまで、デジタル技術が活用されるようになり、仕事が格段に効率化されるようになりました。

これからは、どんな職業でもデジタル技術なしで仕事をするのが考えられなくなってきています。

そのような中、「デジタルリテラシー」を身に付けることが重要になっています。

それでは、この「デジタルリテラシー」とはどのようなもののでしょうか。

デジタルリテラシーとは何か？

デジタルリテラシーはデジタルを使う人にも、特に働く方の全てに必要なもの

- デジタルリテラシーとは、活用されているデジタル技術に関する知識があること、デジタル技術を活用する方法を知っていることであり、“デジタルを作る人” のみならず “デジタルを使う人” にも知っておいていただきたいものになります。
- さらに、どんな職業でもデジタル技術なしで仕事をするのが考えられなくなっている中、デジタルリテラシーは、特に働く方の全てに必要なものです。
- 一般的にデジタル人材としてイメージする新たなデジタルツールの開発に必要な高度なプログラミングスキルなどを対象とするようなものではありません。

冒頭、どんな職業でもデジタル技術なしで仕事をするのが考えられなくなっているのご説明しましたが、実際に働く場ではどのようなデジタル技術が活用されているのでしょうか。

働く場に広がるデジタル技術

以下のとおり、分野を問わず働く場に様々なデジタル技術の活用が広がっています。

どこでもデジタルが使われているんだね



営業・販売・事務分野

- 顧客管理システムによる顧客データ、売上データ等の管理
- 気象条件や売上実績等からAIによる発注数の自動算出
- ホームページ、SNS、YouTubeなどを活用した広報

介護・医療・福祉分野

- タブレットによる一連の業務実績や患者のバイタルデータの記録
- 見守りセンサー付きのベッドマットレスの導入

製造分野

- 受注内容に応じた工程入力による納期の設定
- 生産・販売管理システムによる受注から売上までの進捗管理

旅行・観光分野

- 予約管理システムによるホテルや航空券のオンライン予約
- モバイル観光案内アプリによる観光地情報の発信

医療事務分野

- レセプトコンピュータによる診療報酬明細書作成
- 電子カルテによる患者情報の管理

建設関連分野

- CADを使用した設計図面の作成
- ドローンを活用した三次元測量

理容・美容関連分野

- 予約システム、顧客カルテの電子化
- スマートミラーによる髪型のシュミレーション

輸送サービス分野

- 配送管理システムによる配送ルート最適化や商品の追跡
- フリート管理システムによる車両の位置情報や燃料消費量の確認

林業分野

- ICTハーベスタによる原木数量情報の検知
- ドローン画像やGNSS（全地球航法衛星システム）を用いた面積測量

農業分野

- IoTを活用した温度管理等による農作物栽培
- ドローンを使った農薬・肥料の散布

調理分野

- オンライン注文やデリバリーサービス
- 在庫管理システムによる食材や調味料の在庫管理

警備・保安分野

- 防犯カメラによるモニタリング
- スマートセンサーを活用した警備

これ以外にも働く場での活用事例は日々増え続けており、デジタルリテラシーを身に付けることが重要になっています。

それでは、デジタルリテラシーを身に付けるとは、どのようなことを身に付ければいいのでしょうか。

具体的に何を身に付ければいいのか？

冒頭でデジタルリテラシーとは、①活用されているデジタル技術に関する知識があること、②デジタル技術を活用する方法を知っていることとご説明しましたが、それぞれ以下のことを身に付けることが有効です。

① 活用されているデジタル技術に関する知識があること

- まずは、活用されているデジタル技術に関する知識があることです。
- 先ほどご紹介したように、様々な可能性があり柔軟性に富むデジタル技術の活用事例は、働く場においても日々増え続けています。
- 新たに生まれるデジタル活用事例を知っておくことで、自分の身の回りでどのように活用できるかを考えるインプットになります。
- **就職を希望する分野でのデジタル技術の具体的な活用事例を知っておくことが有効です。**

この分野では
こんな業務も
デジタル化
されているのか



② デジタル技術を活用する方法を知っていること

- 次に、デジタル技術を活用する方法を知っていることです。
- デジタル技術の活用アイデアは、働く場の環境に応じて千差万別であり、自分に合った使い方を考えることが大事です。
- さらに、実際に使ってみれば、活用アイデアが広がります。
- **就職を希望する分野で活用されているデジタルツールやその使用方法を知っておくことが有効です。**

このツールは
こういう便利な
使い方が
できるのね



それでは、デジタルリテラシーを身に付けることでどのような効果が期待できるのでしょうか。

デジタルリテラシー習得の効果は？

実際にデジタルリテラシーを身に付けることで働く場においては以下のような効果が期待できます。

✓ 働く場でのデジタル変化を不安なく自分事と捉えられるようになる

- これから働く場においても、多かれ少なかれデジタルによる変化は訪れるでしょう。
- デジタル技術に関する知識を身に付け、その変化を正しく理解できていれば、不安なく自分事と捉えられ、前向きに取り組むことができるようになります。

以前に学んだことがある〇〇システムが私の職場でも導入されるみたい。業務の効率化が期待できそう。



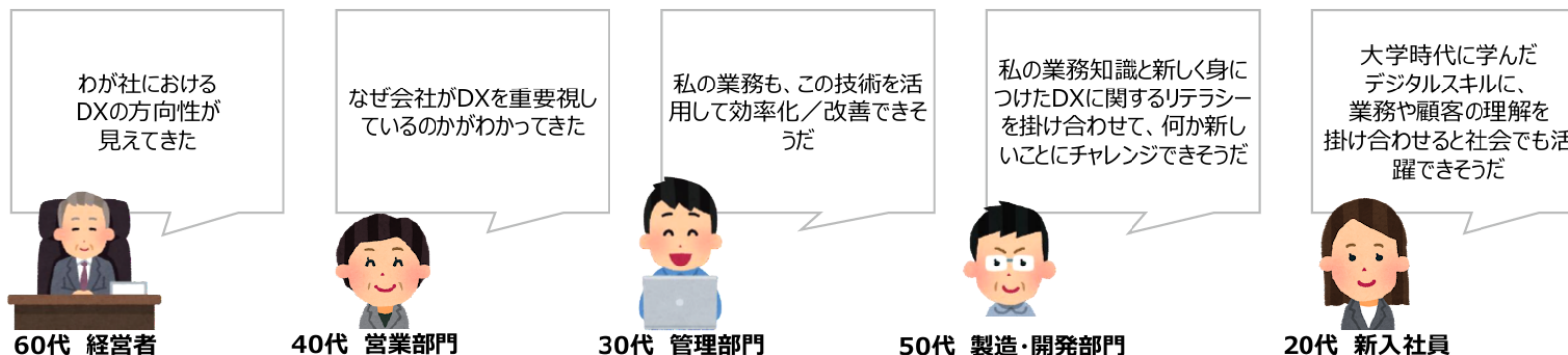
✓ デジタル活用アイデア出しができるようになる

- また、デジタル技術に関する知識や使用方法の習得によって、働く場において、業務をより良くするデジタル活用のアイデアに気付ける方も出てくるでしょう。
- 働く場の一人ひとりの多様な環境や組織の状況に合わせて、柔軟にデジタルを活用できる機会が増えていきます。

私の職場のこの業務、〇〇ツールを使ってより効果的にできるんじゃないか？



DXに関するリテラシーを身につけた人材イメージ



～デジタルリテラシーを身に付け、今後皆様が働く場でも是非お役立てください～

【参考】デジタルリテラシーがなぜ今必要なのか？（解説動画）

ここまでの内容は、デジタルリテラシー協議会（Di-Lite）のHPにある以下の動画コンテンツを参考に作成しています。こちら動画も是非ご覧ください。

デジタルリテラシーがなぜ今重要なのか？ （動画コンテンツ）



動画視聴はこちらにアクセス

デジタルリテラシー協議会HP

<https://www.dilite.jp/>



【参考】DXリテラシー標準について

DXリテラシー標準とは？

- DXを実現するには、働く方一人ひとりがDXの素養を持っている状態、すなわちDXに理解・関心を持ち自分事としてとらえている状態を実現することが不可欠です。さらに、実際に企業がDX戦略を推進するには、関連する専門性をもった人材が活躍することが重要となります。このDX推進における人材の重要性を踏まえ、個人の学習や企業の人材確保・育成の指針として、経済産業省と独立行政法人情報処理推進機構（IPA）が「デジタルスキル標準（DSS）」を策定しました。
- デジタルスキル標準は「**DXリテラシー標準**」と「DX推進スキル標準」の2つの標準で構成、**前者はすべての働く方に向けた指針及びそれに応じた学習項目例を定義**し、後者はDXを推進する人材の役割（ロール）及び必要なスキルを定義しています。
- デジタルスキル標準で対象とする人材は、デジタル技術を活用して競争力を向上させる企業等に所属する人材を想定しており、このうち、「**DXリテラシー標準**」は**全ての働く方を対象**としています。

DXリテラシー標準に沿った学びによる効果（個人）

- DXリテラシー標準に沿って学ぶことで、世の中で起きているDXや最新の技術へのアンテナを広げることができます。アンテナを広げることで、DXリテラシー標準の内容を身につけることにとどまらず、日々生まれている新たな関連項目・キーワードにも興味を向けることができます。
- DXリテラシー標準の内容を起点として、日々生まれる新たな技術・言葉（バズワードと呼ばれるものも含め）の内容や意味を自ら調べる姿勢が求められます。

デジタルリテラシーを効果的に身に付けるために是非ご覧ください。

デジタルスキル標準についてはこちらにアクセス

<https://www.ipa.go.jp/jinzai/skill-standard/dss/index.html>



【参考】デジタル人材育成プラットフォーム“マナビDX”の使い方

マナビDXとは？

- マナビDX（デラックス）は、独立行政法人情報処理推進機構（IPA）が運営するデジタルスキルを身に付ける講座を紹介するポータルサイトです。
- 経済産業省・IPAの掲載基準を満たしたデジタルスキルを学ぶ講座を探することができます。デジタルリテラシーについてわかりやすく解説した講座もあります。
- これまでご紹介したデジタルリテラシーをさらに広く学ぶために是非ご覧ください。

マナビDXサイト

※スマートフォンでもご覧いただけます。

<https://manabi-dx.ipa.go.jp/>



マナビDX

検索

デジタルリテラシー関係講座の探し方の例

① トップページ上部の

「講座一覧」をクリックします。
クリックすると次ページの講座
検索画面に移ります。

※この画像はパソコンからアクセスした時のものです。

【参考】デジタル人材育成プラットフォーム“マナビDX”の使い方

- ② 講座レベルで、「レベル1（リテラシー）」をチェックします。
- ③ 無料講座を探す場合は、「無料」を選択します。
- ④ 「絞り込む」をクリックすると、検索結果に一致する講座が表示されます。
- ⑤ ご自身の関心に合う講座を探してみてください。

The screenshot shows the ManabiDX website interface. At the top, there's a navigation bar with links like '講座一覧' (Course List), 'マナビDXとは' (What is ManabiDX), 'マナビDXでの学び方' (How to learn on ManabiDX), and '講座提供希望の事業者の方へ' (For business operators who want to provide courses). Below this is a search bar with a dropdown for 'スキル標準から探す' (Search by skill standard) and a text input for '何を学びたいですか?' (What do you want to learn?).

The main content area is titled '講座検索結果' (Course Search Results) with '検索結果: 88件' (Search results: 88 items). On the left, there are several filter sections:

- スキル標準** (Skill Standard): A dropdown menu set to 'DXリテラシー標準' (DX Literacy Standard).
- 講座レベル** (Course Level): A list of checkboxes for 'レベル1 (リテラシー)' (Level 1 (Literacy)), 'レベル2', 'レベル3', and 'レベル4'. The 'レベル1 (リテラシー)' checkbox is checked and highlighted with a red box.
- 標準学習時間** (Standard Learning Time): Radio buttons for '00分以内', '1~10時間', and '10時間以上'.
- 受講料** (Tuition): Radio buttons for '有料' (Paid) and '無料' (Free). The '無料' option is selected and highlighted with a red box.
- 終了証発行** (Certificate Issuance): Radio buttons for 'あり' (Yes) and 'なし' (No).
- 試験・検定・資格** (Exam, Certification, Qualification): Checkboxes for 'ITパスポート試験(P)' (IT Passport Exam (P)), '情報セキュリティマネジメント試験(SG)' (Information Security Management Exam (SG)), and '基本情報技術者試験(FE)' (Fundamental Information Technology Exam (FE)).

At the bottom of the filter section, there is a large blue button labeled '絞り込む' (Narrow Down), which is highlighted with a red box. Above it are buttons for 'すべてクリア' (Clear All) and 'クリア' (Clear).

On the right side of the page, there are several course cards. Each card includes the course title, the provider, the level, and a '講座レベル1' (Level 1 Course) button. Examples of courses include '【無料講座・東京開催】さくっと業務改善・GAS講座「メルマガスタンドを作る」' (Free Course - Tokyo Event) and '【無料認定トレーニング】Google Cloud Fundamentals: Core Infrastructure (初級・無料)' (Free Certified Training).

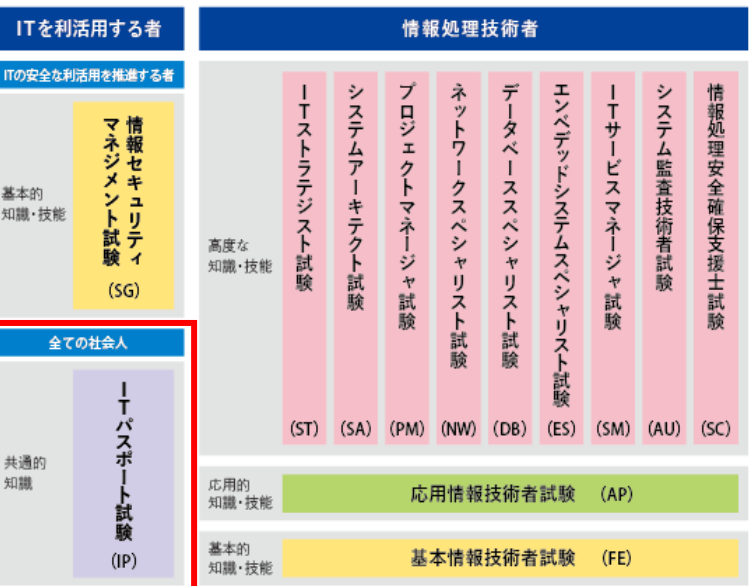
At the bottom right, there is a button labeled '最近閲覧した講座' (Recently Viewed Courses).

※この画像はパソコンからアクセスした時のものです。

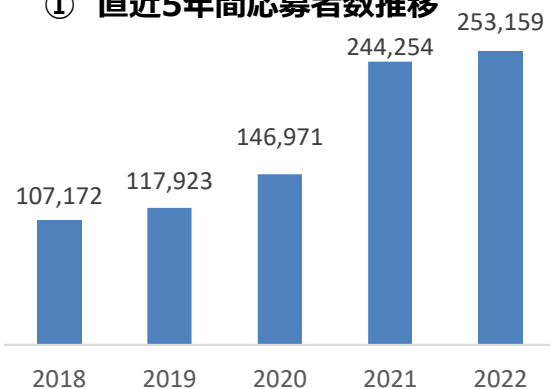
【参考】ITパスポート試験（デジタルリテラシー習得）について

- 情報処理技術者試験は国内最大級の国家試験（年59万人応募）、R4FY合格者20.2万人（ITパスポート11.9万、他8.3万）
- ITパスポート試験は、職業人誰もが備えておくべきデジタルに関する基礎的知識を測るもの。**CBT方式により年間通して実施。**
- 近年、**応募者数は急増中**。中でも、**DX推進のための社員のリテラシー向上を背景に、特に、非IT系企業において応募者数が急増**。中でも金融・保険業においてその傾向が顕著。

試験区分



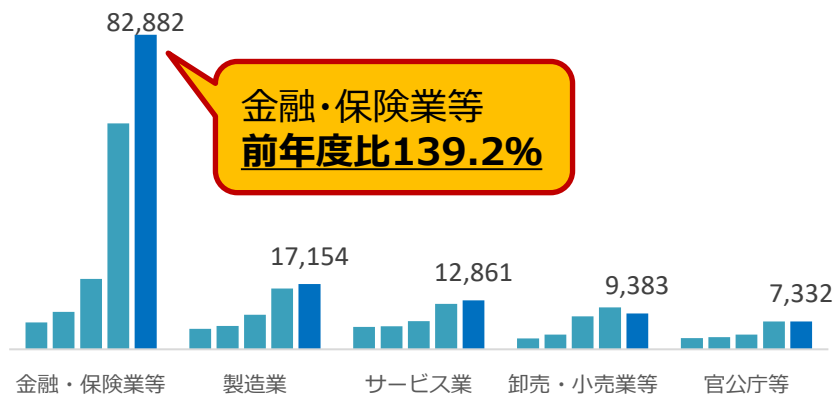
① 直近5年間応募者数推移



② 勤務先別応募者数推移



③ 非IT系上位5業種応募者数推移



ITパスポート試験の詳細は
こちらにアクセス

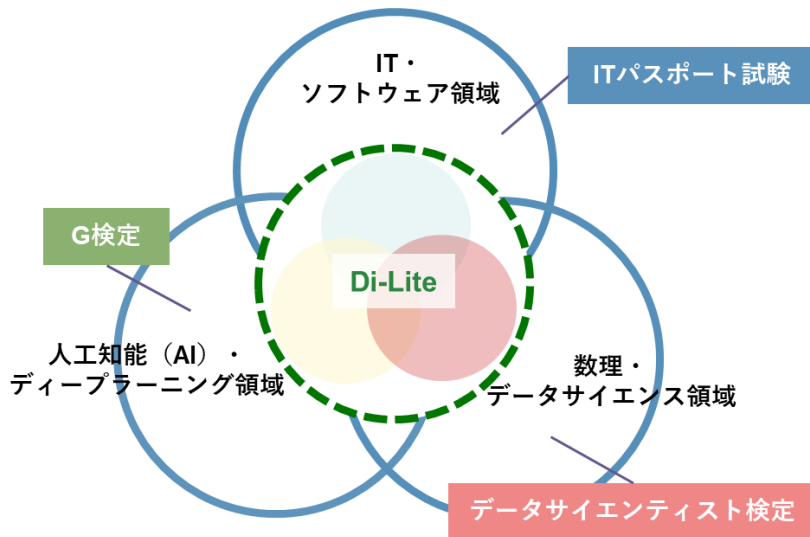


<https://www3.jitec.ipa.go.jp/JitesCbt/index.html>

【参考】すべてのビジネスパーソンが持つべきデジタル時代の共通リテラシー領域「Di-Lite」について、「DX推進パスポート」について

「Di-Lite」とは？

- 「Di-Lite」とは、全てのビジネスパーソンが「デジタルを使う人材」であるために、デジタルリテラシー協議会が定義する、共通して身につけるべきデジタルリテラシー範囲です。
- 「Di-Lite」は現在「IT・ソフトウェア領域」「数理・データサイエンス領域」「AI・ディープラーニング領域」の3領域として定義され、その学習すべき範囲として「ITパスポート試験」「データサイエンティスト検定」「G検定」の3つの試験のシラバス範囲が推奨されています。



デジタルリテラシー協議会HP
<https://www.dilite.jp/>



「DX推進パスポート」とは？

- デジタルリテラシー協議会では、「ITパスポート試験」、「データサイエンティスト検定 リテラシーレベル」、「G検定」の3試験の合格数に応じた3種類のデジタルバッジを発行。（2024年2月開始）
- 3試験のうちいずれか1種類の合格者には「DX推進パスポート1」、いずれか2種類に合格すると「DX推進パスポート2」、3つ全てに合格すると「DX推進パスポート3」のデジタルバッジを発行します。

